
 学 会 記 事

第 100 回新潟内分泌代謝同好会

日 時 平成 26 年 12 月 6 日 (土)
午後 2 時 30 分～午後 6 時
会 場 ホテル日航新潟 「朱鷺の間」

I. 一 般 演 題

1 意識障害の遷延を認めた低ナトリウム血症の 1 例

鈴木 達郎・片桐 尚・涌井 一郎

柏崎総合医療センター

症例は 67 歳，女性。不安神経症にて近医よりゾルピデム，エチゾラムが処方されていた。これまで低ナトリウム血症を指摘されたことはない。X 年 8 月某日，健診にて胃透視検査などが実施された。検査後，水分摂取を指導され 4L 以上の水分を摂取。その後，嘔気・嘔吐・意識障害を認め当院受診。Na 120.3 mEq/l，尿 Na 64 mEq/l，尿浸透圧 578 mOsm/kg，血漿浸透圧 280 mOsm/kg，血漿レニン活性 0.3 ng/ml/hr，ADH 3.8 pg/ml，血中コルチゾール 54.7 μg/dl であり SIADH を背景とした水分過多による低ナトリウム血症が疑われた。入院後，高 CK 血症 (30223 IU/l) を認め，低ナトリウム血症に伴った横紋筋融解症と考えられた。第 3 病日には意識障害は回復し，低ナトリウム血症，高 CK 血症も徐々に改善した。

2 Zollinger - Ellison 症候群にて胃全摘・膵腫瘍部分切除後 36 年目に再発が確認され，かつグルカゴノーマの併発が確認された多発性内分泌腫瘍 1 型の 1 例

 須藤 真則・船越 和博・青柳 智也
栗田 聡・佐々木俊哉・成澤林太郎
加藤 俊幸・谷 長行

県立がんセンター新潟病院内科

症例は 70 歳台女性。30 歳台に胃潰瘍を契機に Zollinger - Ellison 症候群 (ガストリノーマ) と原発性副甲状腺機能亢進症を指摘され，多発性内分泌腫瘍 1 型と診断，当院外科にて胃全摘術，膵腫瘍部分切除術，副甲状腺切除術 (2 腺) が施行された。術後 30 年目頃，近医で血中ガストリン高値を指摘されたが，精査は受けなかった。術後 36 年目に貧血，低蛋白血症などにて当科紹介。膵体部腫瘍，多発肝腫瘍，腹部リンパ節腫大を認め，血中ガストリン高値からガストリノーマ術後再発・多発肝・リンパ節転移と診断し，エベロリムス・オクトレオチド療法を 10 ヶ月施行した。しかし腫瘍縮小効果は乏しく，肺膿瘍を併発し永眠された。剖検では膵に神経内分泌腫瘍を多発性に認めた。最大病変は NET G2 で多発肝転移とリンパ節転移を伴っていた。膵内にはガストリン陽性の腫瘍とグルカゴン陽性の腫瘍が共に見られた。膵内分泌腫瘍の悪性化例は多く報告されているが，本症例のように術後長期間経ての再発が確認され，かつ二種類の内分泌腫瘍が並存した症例は稀であるため，文献的考察を加え報告する。

3 両側副腎腫瘍を伴う，ACTH 非依存性クッシング症候群に選択的副腎静脈サンプリングを施行した 1 例

北澤 勝・矢口 雄大・八幡 和明

長岡中央総合病院 糖尿病センター

症例は 73 才，女性。

【既往歴】糖尿病，高血圧，骨粗鬆症。

【現病歴】59 才に両側副腎腫瘍を指摘。73 才時